

# NEWS LETTER

## 横浜災害ボランティアネットワーク会議



編集・発行：横浜災害ボランティアネットワーク会議

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会内

TEL 045-201-8620 FAX 045-201-1620

H P : <http://www.yokohama-saigai-vol-net.jp/archives/>

E-mail: [saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp](mailto:saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp)



2019年3月発行 No.63

報

告

### 市・区災害ボランティアセンター運営訓練を行いました！

今年度は風水害・地震と全国で災害が多発し、多くの市町村で災害ボランティアセンターが立ち上がり、現在も継続しているところがあります。今年度の市・区災害ボランティアセンター合同訓練は、災害ボランティアセンター運営経験者を講師としてお招きし、運営に関する課題等を会員間で議論・共有しました。

日 時：平成 31 年 3 月 9 日（土）13 時 00 分～ 16 時 00 分

場 所：横浜市健康福祉総合センター 8 階大会議室 A B

参加者：49 名



講師：小林深吾氏

#### ◆内容

#### 1. 災害ボランティアセンター運営支援者から学ぶ

講師：一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター

講師のピースボートボランティアセンターは、倉敷市真備町、総社市で現在も支援に入っており、実体験に基づいたお話しをしていただきました。

その中で、大規模災害時は専門技術を得意とする団体や有資格者などボランティアが多様化するが、被災地に入るときには、地元の人の知恵や、どうしてほしい・どのように関わってほしいということを教えてもらえるというお話がありました。

また、真備町でのサテライト運営は7校区のうち4カ所を担当されたそうですが、まちづくり協議会が地元の被災状況を詳しく知っており、地元のネットワーク組織の存在が大きかったとのことでした。

復興支援をすすめていくためには、外部からの支援者と地元とのネットワークが重要であり、そのために日頃からの関係性づくりが大切であることを学びました。

#### 2. 報道から学ぶ・グループディスカッション

阪神・淡路大震災以降、日本各地における災害支援活動の実践映像から、被災者中心の支援者ネットワークを作り、現場での被災者の困り事を共有し、ボランティアとして何ができるか話し合いをした事例などを学びました。

引き続き、講義と映像をもとに、横浜市・18区災害ボランティアセンター運営に向けて現在の自分たちの活動で出来ているところ、必要な準備や体制についての意見交換をしました。

(主な意見)

- ◆外部の支援団体とスムーズな連携をしていくために、日頃から関係づくりをする。
- ◆発災時から被災者の心のサポートが大切であることを、運営者は忘れてはいけない。
- ◆得意分野をもつ団体の強みを活かし、スムーズに支援できる体制づくり。
- ◆ニーズを待つだけでなく、被災者の声を聞く機会をたくさん作ることは大切。





## 旭区災害ボランティア連絡会

横浜市旭区災害ボランティア連絡会では、平成 30 年度は「地域防災拠点との連携を深化」を事業の最重要事項と捉えて活動してまいりました。今年度の活動内容の報告をさせていただきます。

- (1) 地域防災拠点コーディネーター推薦依頼（登録者数 156 名）
- (2) 地域防災拠点コーディネーターより「ボランティア派遣要望書（ニーズ票）」を災害ボランティアセンターへ FAX 送信する訓練を実施し、派遣方法の確認を行った。
- (3) 研修会は NTT レゾナント株式会社より「J-anpi(災害時安否情報) システム」をメインテーマとして、住民の安否が最優先と考え実施した。(実施日：平成 30 年 9 月 21 日(金)、参加者 88 名)
- (4) 訓練は「旭区災害ボランティアセンター設置・運営」開設時よりの流れ、地域防災拠点との連携について実施した。(実施日：平成 30 年 12 月 14 日(金)、参加者 92 名)

上記の活動により、地域防災拠点との連携も進んでいると実感しています。次年度以降も一人でも多くの皆様のご理解・ご協力を頂き「災害に負けない旭区」の一助として進めてまいりたいと思います。



ホームページはこちら↑

## 磯子区災害ボランティアネットワーク

磯子区災害ボランティアネットワークは災害時に設置される「磯子区災害ボランティアセンター」の運営を担います。区役所・区社協と連携し、地元被災地からのボランティアニーズ（派遣依頼）と、地元・全国から駆けつけた応援ボランティアとを調整し、効率よく派遣する作業を行います。

平時には、災害時シミュレーション、防災減災の啓発・普及活動、会の認知度向上の広報活動、会員の研修・情報交換会等の活動をしています。

### 【主な活動】

#### <災害ボランティアセンター設置運営訓練>

区役所・社協と合同で、毎年センターの設置運営シミュレーションを実施しています。

今年度は9月24日に開催、77名の参加がありました。

#### <防災パネル展>

防災に関する周知啓発のため、区役所・地域防災拠点・地域ケアプラザ等でパネル展示を行っています。

#### <地域防災拠点との連携>

各地域防災拠点で開催される訓練に参加したり、講習会をするなど、連携を強化しています。

#### <定例会>

毎月会員が集まり、活動に関する検討や情報共有を行っています。



パネル展示の様子



センター設置運営訓練の様子



磯子区災ボラ Facebook



磯子区災ボラツイッター

報

告

## 区災害ボランティアネットワーク ブロック別連絡会

## 1月29日 Dブロック連絡会報告

(港北区、緑区、都筑区、青葉区)

青葉区が幹事区となり研修会を開催しました。

講師はさいたま災害ボランティアネットワークの日野泰宏さん。『災害ボランティア活動支援プロジェクト会議』通称「支援P」が、大規模災害が起きた際、災害ボランティアセンターの開設や運営をどのように支援しているのか、実際に現場で感じたことをお話いただきました。

「大災害の直後の救助活動では『地域のコミュニティカ』によって生死が分かれる」、「復旧・復興期（災害ボランティアが現地に入りだす時期）では『地域の受援力』によって再生復興への時間が分かれる」というまとめの言葉に、私たち災害ボランティアネットワークの活動は何を目的としているのか今一度考えよと問われているのだと感じました。



## 2月19日 Bブロック連絡会報告

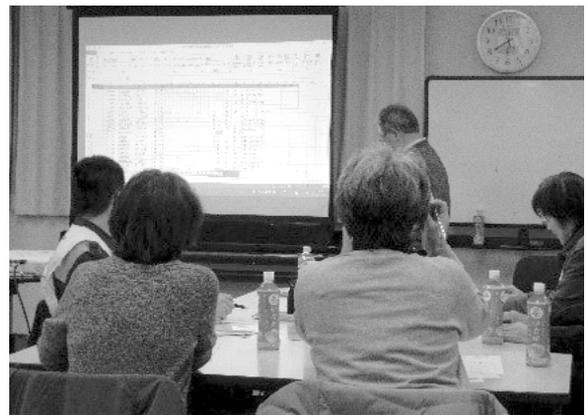
(港南区、磯子区、金沢区、戸塚区、栄区)

栄区が幹事区となり開催しました。

今後継続して取組みたいことや災害ボランティアセンターの運営力についての事前アンケートに基づき、グループワークを行いました。

Bブロック内の被災状況を想定・共有し、どのように協力しあえるか。Bブロック全体としてどのようにボランティアを受け入れていくか検討も必要などの意見が出されました。

その後栄区が取組んでいる「ニーズと支援ボランティアとのマッチング」の発表があり、マッチングシステムについて考え合いました。



報

告

## 震災対策技術展に出展しました！

2月7日(木)、8日(金)にパシフィコ横浜で行われた『震災対策技術展』—自然災害対策技術展—に横浜災害ボランティアネットワーク会議として出展しました。

当日は今までの活動内容を示したパネルを展示し、リーフレットを配布しました。

多くの方が足を止めてくださり、「自分の住んでいる区にも災害ボランティアネットワークはあるのか?」、「どのような活動をしているのか?」など熱心に質問してくれる方もたくさんいました。

横浜災害ボランティアネットワーク会議では、

今後も災害ボランティアを考えるきっかけになるような周知活動にも積極的に取り組んでいきます。

